

事典・辞典の「ハロウイン」

—『広辞苑』と『大辞林』—

佐々木隆

プロローグ

レポートや論文を書く際に最も重要なのが、言葉や用語の定義である。ここを曖昧に進めると理解よりも誤解を生むことが多くなる。定義を確認するのに最も利用されるのが事典・辞典の類だろう。筆者はこれまでに「ハロウイン」をテーマにした論文(一)を發表してきたが、その時にも多くの文献を活用した。ここではすべての事典・辞典を調べることはできなかったが、一般的に認知度の高い新村出編『広辞苑』(岩波書店)と松村明編『大辞林』(三省堂)を中心にその結果をここでは紹介しておきたい。なお、「ハロウイン」(「ハロウイン」)だけでなく、周辺の用語と

して「諸聖人の祝日」・「諸聖徒祭」・「万聖節」・
「万霊節」と合わせてリサーチを行った。

一 『広辞苑』

『広辞苑』については岩波書店ホームページに
は次のような説明がある。

『広辞苑』は長い年月を経て、読者の皆様に愛
され、信頼を厚くし、いまや「国語十百科」辞
典の最高峰、「国民的辞典」と言われるまでに
成長しました。(一)

『広辞苑』に記載されている「編集方針」の第一
には次のようにある。

この辞典は、国語辞典であるとともに、学術

専門語ならびに百科事全般にわたる事項・用語
を含む中辞典として編修したものである。こば
の定義を簡明に与えることを主眼としたが、語
源・語誌の解説にも留意した。(三)

筆者は以前『広辞苑』を扱った論文で、筆者自身
で『広辞苑』を次のように定義した。

一冊で国語辞典十百科事典の内容を網羅してい
る辞典・事典。日本のものと海外のものとの取
り扱いが一部異なる。研究者等も言葉の定義で
も使用する評価されたもの。(四)

『広辞苑』は一九三五年二月に『辞苑』(博文館)
で出版され、戦後は『広辞苑』(岩波書店)とし
て発行されるようになった。これまでの出版状況
は次の通りである

一九五五年五月 初版発行

一九六九年五月 第二版発行

一九七六年十二月 第二版補訂版行

一九八三年十二月 第三版発行

一九九一年十一月 第四版発行

一九九八年十一月 第五版発行

二〇〇八年一月 第六版発行

二〇一八年一月 第七版発行

二 『広辞苑』の「ハロウィン」

『広辞苑』は一九五五年五月に初版が発行されているが、一九九一年十一月の第四版まで「ハロウィン」は掲載されていなかった。一九六四年に東京オリソニック、一九七〇年には大阪で万国博覧会が開催され、日本は名実共に国際社会の仲間入りを果たした。そのため、ここでは一九七〇

年以降に改訂されたものから見ておきたい。

一九七六年十二月の第二版補訂版には親項目とその定義について見て行きたい。

しよせいじん・の・しゆくじつ【諸聖人の祝日】

親項目なし

しよせいと・さい【諸聖徒祭】(All Saints Day)

キリスト教でこの世を去った諸聖人を記念するため毎年十一月一日に行う祝祭。諸聖人の日。万聖節。(五)

ハロウィン【Halloween】親項目なし

ばんせい・せつ【万聖節】「宗」諸聖徒祭に同

じ。(六)

ばんれい・せつ【万霊節】親項目なし

一九八三年十二月の第三版では次のようになっている。

しよせいじん・の・しゅくじつ【諸聖人の祝日】

親項目なし

しよせいと・さい【諸聖徒祭】

(All Saints' Day) キリスト教で、諸聖人を

記念するため毎年十一月一日に行う祝祭。諸

聖徒日。万聖節。(七)

ハロウィン【Halloween】親項目なし

ばんせい・せつ【万聖節】「宗」諸聖祭に同じ。

(八)

ばんれい・せつ【万霊節】「宗」(All Souls' Day)

親項目なし

一九九一年十一月の第四版では次のようになっ

てる。

しよせいじん・の・しゅくじつ【諸聖人の祝日】

(All Saints' Day) キリスト教で、諸聖人を

記念するため毎年十一月一日に行う祝祭。諸

聖徒日。万聖節。(九)

しよせいと・さい【諸聖徒祭】親項目なし

ハロウィン【Halloween】諸聖人の祝日の前夜

(一〇月三十一日)に行われる祭り。スコット

ランド・アイルランドに起源を持つ米国の祝

い。(一〇)

ばんせい・せつ【万聖節】「宗」諸聖人の祝

日」に同じ。(一一)

ばんれい・せつ【万霊節】「宗」(All Souls' Day)

キリスト教で、この世を去ったすべての信徒

を記念する日。万聖節の翌日。十一月二日。

諸魂日。(一二)

一九九八年十一月の第五版では次のようになっ

ている。

しよせいじん・の・しゆくじつ【諸聖人の祝日】

(All Saints' Day) キリスト教で、諸聖人を

記念するため毎年十一月一日に行う祝祭。諸

聖徒日。万聖節。(二三)

しよせいと・さい【諸聖徒祭】親項目なし

ハロウィン【Halloween】諸聖人の祝日の前夜

(一〇月三十一日)に行われる祭り。スコット

ランド・アイルランドに起源を持つアメリカ

の祝い。(二四)

ばんせい・せつ【万聖節】「宗」「諸聖人の祝

日」に同じ。(二五)

ばんれい・せつ【万霊節】「宗」(All Souls' Day)

キリスト教で、この世を去ったすべての信徒

を記念する日。万聖節の翌日。十一月二日。

諸魂日。(二六)

二〇〇八年一月の第六版では次のようになってい
る。

しよせいじん・の・しゆくじつ【諸聖人の祝日】

(All Saints' Day) キリスト教で、諸聖人を

記念するため毎年十一月一日に行う祝祭。諸

聖徒日。万聖節。(二七)

しよせいと・さい【諸聖徒祭】親項目なし

ハロウィン【Halloween】諸聖人の祝日の前夜

(一〇月三十一日)に行われる祭り。スコット

ランド・アイルランドに起源を持つアメリカ

の祝い。(二八)

ばんせい・せつ【万聖節】「宗」「諸聖人の祝

日」に同じ。(二九)

ばんれい・せつ【万霊節】(All Souls' Day)

キリスト教で、この世を去ったすべての信徒

を記念する日。万聖節の翌日。十一月二日。

諸魂日。(一〇)

二〇一八年一月の第七版では次のようになって
る。

しよせいじん・の・しゆくじつ【諸聖人の祝日】

(All Saints' Day) キリスト教で、諸聖人を

記念するため毎年十一月一日に行う祝祭。諸

聖徒日。万聖節。(一一)

しよせいと・さい【諸聖徒祭】 親項目なし

ハロウィン【Halloween】諸聖人の祝日の前夜

(十一月三十一日)に行われる祭り。スコット

ランド・アイルランドに起源を持つ収穫祭で、

魔除けの意味を持つ。(一二)

ばんせい・せつ【万聖節】「宗」諸聖人の祝

日」に同じ。(一三)

ばんれい・せつ【万霊節】(All Souls' Day)

キリスト教で、この世を去ったすべての信徒
を記念する日。万聖節の翌日。十一月二日。

諸魂日。(一四)

『広辞苑』の記載状況を整理すると次のようにな
る。

・親項目として「諸聖人の祝日」「諸聖徒祭」

「万聖節」「万霊節」の項目については一九

八三年十二月の第三版までは「諸聖人の祝

日」はなく「諸聖徒祭」が親項目であったも

のが、一九九一年十一月の第四版よりは反対

に「諸聖人の祝日」が親項目となり、「諸聖

徒祭」は記載がなくなった。同時に「ハロウ

イン」「万霊節」については一九九一年第四

版より取り上げられるようになった。

・「ハロウィン」の定義として構成されている

内容は、日程とその起源。

・起源等については国を強く意識している。

定義の中で注目すべきは一九九一年の第四版から「スコットランド・アイルランドに起源を持つ米国の祝い」（一九九八年の第五版からは「アメリカの祝い」となっているが、当然、「アメリカの祝い」という記述は相応しくない。この部分は二〇一八年の第七版のものでは「スコットランド・アイルランドに起源を持つ収穫祭で、魔除けの意味を持つ」と変わっている。祭りの内容が新たに記載されたことだ。ハロウィーンは二つの祝祭があるが、その両方が記載されている。

『広辞苑』では一九九八年の第五版の改訂の際には「ハロウィン」が取り上げられていないため、日本での認知度やその理解が背景にあるものと思われる。ジョン・カーペンター監督『ハロウイ

ン』（一九七八年、アメリカ）の映画が製作（日本公開は一九七九年）、一九八三年には原宿キディランドによるハロウィーン仮装パレード、一九九二年十月十七日の夜にハロウィーンパーティー参加しようとする日本人留学生が友人宅を訪問した際、訪問先を間違え、こと、「フリーズ」(Freeze)を「プリーズ」(Please)と聞き間違え、静止しなかったため家主に射殺された事件があった。第五版が出版される前年の一九九七年にはカワサキハロウィン、東京デイズニールランドの「デイズニール・ハッピー・ハロウィーン」開始などの大きなイベント開催されたが、出版前年ということから反映されなかった可能性もある。二〇〇八年に掲載されたものの「アメリカの祝い」と定義されているところに注目するとすれば、アメリカでのハロウィーンが日本では特に紹介されたために、あるいはアメリカでビジネス化されたハロウイ

ンが主流になったことが原因かもしれない。二〇一八年の第七版ではハロウィーンの起源とその内容を捉えることに立ち戻っているとも言える。

三 『大辞林』

『広辞苑』はやや硬い印象があるが、松村明編『大辞林』は、どちらかといえば、現代語義を優先している。三省堂ホームページの「三省堂近代辞書の歴史」には次のように紹介している。

現代語にもとづく「国語十百科」の総合的国語辞典誕生（二五）

三省堂は『大辞林』までに次のような変遷を経ている。

金沢庄三郎編『辞林』、一九〇七年四月

金沢庄三郎編『広辞林』、一九二五年九月

金沢庄三郎編『小辞林』、一九二八年九月

松村明編『大辞林』、一九八八年十一月

松村明編『大辞林』、一九九五年十一月、第二

版

松村明編『大辞林』、二〇〇六年十月、第三版

松村明編『大辞林』、二〇一九年九月、第四版

四 『大辞林』の「ハロウィーン」

『大辞林』は一九八八年十一月の初版のため、初版から第四版まで時系列で見していきたい。初版では次のようになっている。

しよせいじんのしゆくじつ【諸聖人の祝日】

親項目なし

しよせいとさい【諸聖徒祭】親項目なし

ハロウィン【Halloween】万聖節（十一月一

日）の前夜祭。古代ケルト起源で、秋の収穫を祝い悪霊を追い出す祭り。アメリカでは、

カボチャをくり抜き目鼻口をつけた提灯を

飾り、夜には怪物に仮装した子供たちが近所を回り菓子をもらったりする。ハロワイ

ン。(二六)

ハロウィン【Halloween】→ハロウィン(二七)

ばんせいせつ【万聖節】[All Saints' Day]キリ

スト教で、毎年十一月一日にあらゆる聖人を記念する祝日。カトリック教会では、諸聖人の

祝日と呼ばれる。プロテスタント教会では

聖徒の日と呼び、死者を記念する。(二八)

ばんれいせつ【万霊節】[All Souls' Day]キリス

ト教特にカトリックの教会や聖公会の一部で、万聖節の翌日である十一月二日に行われ

る。死者の記念日。死者の日。(二九)

一九九五年十一月の第二版では次のようになっている。

しよせいじんのしゆくじつ【諸聖人の祝日】

親項目なし

しよせいとさい【諸聖徒祭】親項目なし

ハロウィン【Halloween】万聖節（十一月一

日）の前夜祭。古代ケルト起源で、秋の収穫を祝い悪霊を追い出す祭り。アメリカでは、

カボチャをくりぬき目鼻口をつけた提灯を

飾り、夜には怪物に仮装した子供たちが近所を回り菓子をもらったりする。ハロワイ

ン。(三〇)

ハロウィン【Halloween】→ハロウィン(三一)

ばんせい・せつ【万聖節】[All Saints' Day]キ

リスト教で、毎年十一月一日にあらゆる聖人を記念する祝日。カトリック教会では、諸聖人の祝日と呼ばれる。プロテスタント教会では聖徒の日と呼び、死者を記念する。

(三二)

ばんれいせつ【万霊節】[All Souls' Day]キリスト教特にカトリックの教会や聖公会の一部で、万聖節の翌日である十一月二日に行われる。死者の記念日。死者の日。(三三)

二〇〇六年十月の第三版では次の通りである。

しよせいじんのしゆくじつ【諸聖人の祝日】

親項目なし

しよせいとさゝい【諸聖徒祭】親項目なし

ハロウィーン【Halloween】万聖節（十一月一

日）の前夜祭。古代ケルト起源で、秋の収穫

を祝い悪霊を追い出す祭り。アメリカでは、カボチャをくりぬき目鼻口をつけた提灯を飾り、夜には怪物に仮装した子供たちが近所を回り菓子をもらったりする。ハロウィーン。(三四)

ハロウィーン【Halloween】→ハロウィーン

(三五)

ばんせいせつ【万聖節】[All Saints' Day]キリスト教で、毎年十一月一日にあらゆる聖人を記念する祝日。カトリック教会では、諸聖人の祝日と呼ばれる。プロテスタント教会では聖徒の日と呼び、死者を記念する。

(三六)

ばんれいせつ【万霊節】[All Souls' Day]キリス

ト教特にカトリックの教会や聖公会の一部で、万聖節の翌日である十一月二日に行われる。死者の記念日。死者の日。(三七)

二〇一九年九月の第四版では次の通りである。

しよせいじん・の・しゅくじつ【諸聖人の祝日】

親項目なし

しよせいと・さい【諸聖徒祭】親項目なし

ハロウィーン【Halloween】万聖節（十一月一

日）の前夜祭。古代ケルト起源で、秋の収穫を祝い悪霊を追い出す祭り。アメリカでは、

カボチャをくりぬき目鼻口をつけた提灯を飾り、夜には怪物に仮装した子供たちが近

所を回り菓子をもらったりする。ハロウイ

ン。ハロウィーン。 三〇

ハロウィーン【Halloween】→ハロウィーン

(三九)

ばんせい・せつ【万聖節】[All Saints' Day]キ

リスト教で、毎年十一月一日にあらゆる聖人

を記念する祝日。カトリック教会では、諸聖人の祝日と呼ばれる。プロテスタント教会では聖徒の日と呼び、死者を記念する。 四〇

ばんれい・せつ【万霊節】[All Souls' Day]キリ

スト教特にカトリックの教会や聖公会の一部で、万聖節の翌日である十一月二日に行われる。死者の記念日。死者の日。 四一

『大辞林』では初版から「ハロウィーン」が親項目として取り上げられている。途中から「ハロウィーン」の表現が主となっていることがわかる。

『大辞林』では「諸聖徒祭」「ハロウィーン」（ハロウィーン）「万聖節」の親項目が継続的に設定されている。『大辞林』の記載状況を整理すると次のようになる。

・親項目として「諸聖人の祝日」「諸聖徒祭」はないが、「万聖節」はある。

・親項目として「ハロウィン」(途中から「ハロウィーン」)「ハロoween」「万聖節」「万霊節」が初版から取り上げられている。

・表現として「ハロウィン」「ハロウィーン」を主とし、それ以外にも「ハロoween」の表現が紹介されている。

・「ハロウィーン」の定義として構成されている内容は、基本的に初版より変化はない。

・定義は主に日程、起源、祝祭の様子が盛り込まれている。

・起源では国ではなく、文化を中心に考えている。

・祝祭の様子として、アメリカではとしながら、カボチャの提灯、仮装、子供たちが菓子を貰い歩くことが挙げられている。

起源については「古代ケルト」への言及がある。

万聖節ではキリスト教の祝祭日であり、ハロウィーンについては「万聖節の前夜祭」としながら、これもともとキリスト教に起源を持つものではなく、「古代ケルト」から生じているものとしている。但し、ドルイド教やケルト文化とせず、一貫して「古代ケルト」としている点も大きな特徴であろう。ハロウィーンのもつ収穫祭と死者が蘇り、悪霊を追い出す祭りというふたつの祝祭について定義されている。ジャック・オー・ランタン (Jack-o'-Lantern)、トリック・オア・トリート (trick or treat) といった用語は使用していないが、ハロウィーンで行われる内容を捉えている。ハロウィーンの様子を「アメリカでは」と紹介していることも注目に値する。古代ケルトに起源を持つことから、イギリスやアイルランド、あ

るいはヨーロッパに言及するのではなく、アメリカを取り上げていることは、ハロウインの行事の代表的な様子がアメリカであるということなるからだ。

五 『広辞苑』と『大辞林』の「ハロウイン」

『広辞苑』が「ハロウイン」を親項目として掲載始めたのが一九九一年であるのに対して、『大辞林』は初版の一九八八年から「ハロウイン」については掲載されている。前述の通り一九八三年の原宿でのイベントもあったが、『朝日新聞』（一九八七年十月二十八日）ではハロウインの記事が掲載されるなど、その盛り上がり兆候を見せていたことも見逃せないだろう。『広辞苑』にしる『大辞林』にしる、一般への周知という点は重要な点であるため、現代語を重視する『大辞

林』の方が新しいものを取り入れやすい傾向にある。ここで最新の定義を再度並列すると次の通りとある。

『広辞苑』（二〇一八年一月、第七版）

ハロウイン **[Halloween]** 諸聖人の祝日の前夜

（一〇月三十一日）に行われる祭り。スコットランド・アイルランドに起源を持つ収穫祭で、魔除けの意味を持つ。（四）

『大辞林』（二〇一九年九月、第四版）

ハロウイン **[Halloween]** 万聖節（十一月一日）の前夜祭。古代ケルト起源で、秋の収穫を祝い悪霊を追い出す祭り。アメリカでは、カボチャをくりぬき目鼻口をつけた提灯を飾り、夜には怪物に仮装した子供たちが近所を回り菓子をもらったりする。ハロウイ

ン。ハローウイン。(四三)

商店として開業

一九一四年 四月 夏目漱石『こゝろ』刊行

一九二七年 七月 「岩波文庫」創刊

一九三八年 十一月 「岩波新書」創刊

『広辞苑』が諸聖人の祝日に重きが置かれ、『大辞林』はハローウイン自体の具体的な行事の内容が記載されていることが大きな特徴である。「万聖節」の親項目は両辞書に掲載されているが、『大辞林』はカトリック教会、プロテスタント教会での呼び方がことなることまで初版から掲載していることも大きな特徴だ。親項目の掲載も異なる。後発の辞書は先行辞書を意識するのは当然だ。

これに対して三省堂の歴史は、はるかに古い。(四五)三省堂の「三省堂の辞典・書籍にまつわるコラム」「三省堂辞書の歩み」のコラム一覽(四六)よりその一部を紹介しておきたい。

ここでもうひとつ注目しておきたいことは出版

一八八一年 四月 古書籍業として創業

版社の辞書発行史である。『広辞苑』を出版している岩波書店は一九一三年に古書店としてスタートした。「岩波書店の歩み」(四四)の一部を紹介しておく。

一八八八年 四月 高橋五郎編『和英袖珍字彙』

一八八八年 九月 F・W・イーストレーキ

一九一三年 八月 古書籍販売・出版の個人

／棚橋一郎共編『ウエ

ブスター氏新刊大辞書
和訳字彙』

一八九〇年 十二月 F・W・イーストレーキ、

棚橋一郎共編『英和袖

珍新字彙』

一八九一年 五月 F・W・イーストレーキ／

神田乃武共編『和英袖珍

新字彙』

一八九四年 五月 F・W・イーストレーキ／

岩崎行親・棚橋一郎・中

川愛咲・秋保辰三郎共編

『英和新辞林』

三省堂の辞書の出版史だけを見ても、早くから英語系の辞書を中心に出版が行われていたことがわかる。西山義行編『英和袖珍字彙』（一八八四）

では All Saints' Day, Halloween の見出し語はな

いが、関連しそうな見出し語を列挙してみたい。

Celtic ムカシノ一セルト一ジンシユノ（四七）

Christmas ヤソノタンジヨウビ（ジユウニガ

ツニジユウゴニチナリ）（四八）

Hallow シンセイナリトアガメル。シンセイト

ナス（四九）

三省堂書店の最初の英和辞典にはまだ「ハロウィーン」は掲載されていなかったものの、「クリスマス」は掲載されていた。また、Celtic が見出し語として取り上げられていることを見ると、「ケルト」への傾倒齟振りは注目に値する。

エピローグ

日本でハロウィーンが大きなイベントとして

定着し始めたのは、一九九七年がひとつの契機があった。それはカワサキハロウィンや東京デイズ・ニールランドのデイズニー・ハッピー・ハロウィンが開始され、現在も継続されている。『大辞林』が初版から「ハロウィン」は掲載され、『広辞苑』は遅れて一九九一年に掲載されるようになる。また、両者に共通しているように、アメリカでのハロウィーンの在り方が日本にも大きな影響を与えていることが今回の調査で分かった。アメリカは日本にとつては憧れの的である時期があったことが大きな理由であろう。

注

- (一) 筆者がこれまで発表してきおもな「ハロウィン」関係の論文等は次の通りである。
- ・「ポップカルチャーとしてのハロウィン」

(『武蔵野学院大学日本総合研究所研究紀要』第十三輯、武蔵野学院大学日本総合研究所、二〇一六年三月)、一〜六頁。

・「イギリス文化の源流・ケルト文化の取り扱いについて―高等学校から大学へ―」(『新教育課程研究』第三号、武蔵野教育研究会、二〇一八年五月)、一〜四十五頁の内。

・「渋谷のハロウィンとスクランブル交差点」(『むらおさ』第三〇号、むらおさ同人会、二〇一九年七月)、八〜二〇頁。

・「渋谷ハロウィンから見えるもの」(『日欧比較文化研究』第二十三号、日欧比較文化研究会、二〇一九年十月)、五十一〜六十八頁。

・「日本のハロウィン今昔物語…明治時代に紹介されたハロウィン」(『若者文化・

ポップカルチャー研究』第一号、若者文化・ポップカルチャー研究会、二〇二〇年二月）、一〜二十一頁。

・「日本ハロウィン受容小史」（『武蔵野学院大学日本総合研究所研究紀要』第十七輯、武蔵野学院大学日本総合研究所、二〇二〇年三月）、百三十一〜百三十九頁。

・「ハロウィンとコスプレ」（『むらおさ』第三十二号、むらおさ同人会、二〇二〇年七月）、八〜十七頁。

・「ハロウィンとゾンビ」（『日欧比較文化研究』第二十四号、日欧比較文化研究会、二〇二〇年十月）、三十二〜六十一頁。

(二) 「岩波書店ホームページ」

(<http://koijen.iwanami.co.jp/>) (二〇一八年一月二十七日アクセス)

(三) 新村出編『広辞苑』（岩波書店、二〇一八年一月、第七版）、一一頁。

(四) 佐々木隆「『広辞苑』（第七版）に見るポップカルチャーの台頭」（『比較文化史研究』第十九号、比較文化史学会、二〇一八年三月）、四十六頁。

(五) 新村出編『広辞苑』（岩波書店、一九七九年十月、第二版補訂版第四刷）、一一二頁。

(六) 同右、一八三八頁。

(七) 新村出編『広辞苑』（岩波書店、一九八三年十二月、第三版）、一一一三頁。

(八) 同書、一九八八頁。

(九) 新村出編『広辞苑』（岩波書店、一九九一年十一月、第四版）、一二九九頁。

(二〇) 同書、一二九九頁。

(二一) 同書、二二二二頁。

(一一) 同書、二二三〇頁。

(一二) 新村出編『広辞苑』（岩波書店、一九

九八年十一月、第五版）、一三四七頁。

(一三) 同書、二一九七頁。

(一四) 同書、二二〇六頁。

(一五) 同書、二二一四頁。

(一六) 新村出編『広辞苑』（岩波書店、二〇

〇八年一月、第六版）、一四一三頁。

(一七) 同書、二三二〇頁。

(一八) 同書、二三二九頁。

(一九) 新村出編『広辞苑』（岩波書店、二〇一

八年一月、第七版）、一四七二頁。

(二〇) 同書、二四〇六頁。

(二一) 同書、二四一七頁。

(二二) 同書、二三二九頁。

(二三) 同書、二〇九二頁。

<https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/fo>

<pic/dict130/>（二〇二〇年五月六日アクセス）

ス

(二六) 松村明編『大辞林』（三省堂、一九八

八年十一月、初版）、一九九〇頁。

(二七) 同右。

(二八) 同書、一九九九頁。

(二九) 同書、二二六五頁。

(三〇) 松村明編『大辞林』（三省堂、一九九

五年十一月、第二版）、二二二四頁。

(三一) 同右。

(三二) 同書、二二三三頁。

(三三) 同書、二二四二頁。

(三四) 松村明編『大辞林』（三省堂、二〇〇六

年十月、第三版）、二〇八三頁。

(三五) 同右

(三六) 同書、二〇九二頁。

(三七) 同書、二二〇〇頁。

クセス)

(三八) 松村明編『大辞林』(三省堂、二〇一九年九月、第四版)、二二四六頁。

(四六)「三省堂の辞典・書籍にまつわるコラム」[三省堂辞書の歩み]のコラム一覧]

(三九) 同右。

<https://dictionary.sanseido-publ.co.jp>

(四〇) 同書、二二五六頁。

[/columncat/sanseido](https://columncat/sanseido)の辞典・書籍にまつわ

(四一) 同書、二二六五頁。

るコラム[三省堂辞書の歩み(二〇二〇年五月

(四二) 新村出編『広辞苑』(二〇一八年一月)、

九日アクセス)

二四〇六頁。

(四七) 西山義行編『英和袖珍字彙』(三省堂、

(四三) 松村明編『大辞林』(三省堂、二〇一九

一八八一年三月)、八十一頁。

年九月)、二二四六頁。

(四八) 同書、八十七頁。

(四四) 「岩波書店の歩み」

(四九) 同書、二百四〇頁

<https://www.iwanami.co.jp/company>

[/ec1310.html](https://ec1310.html) (二〇二〇年五月九日アクセス)

(四五) 「三省堂書店の歩み」

<https://www.books-sanseido.co.jp>

[/company/history/](https://company/history/)二〇二〇年五月九日アクセス)